

大洲市地域おこし協力隊便り

中村 光一 VOL. 5(R6. 8)



大洲市地域おこし協力隊

EHIME

協力隊になつての3年間と

これからのこと

01

あらためて自己紹介

02

3年間の活動の振り返り

03

退任後について

04

最後に……



あらためて自己紹介

なぜ大洲市を選んだのか

造園業や農業など『業』に窮屈さを感じる中、植物を活用することで人を豊かにすることを軸に、今までの経験を生かすことができないかと調べるうちに地域おこし協力隊の存在を知りました。そして全国の地域おこし協力隊の募集の中から自分が活かせる場所はないかと探していき、大洲市にたどり着きました。

何も接点がなかった大洲市を選んだ理由は、臥龍山荘やうかい、いもたき、肱川あらしなど面白いものがたくさんあり、キャッスルステイなど新しいものを取り入れている地域と感じたためです。

(I)

協力隊募集時の事前視察にて大洲に訪れたその日に提案書を作ったほど魅力的でした

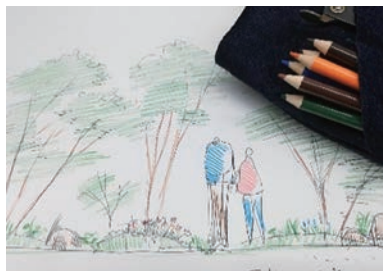
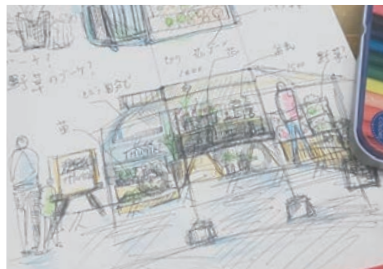
(II)

農に関わるものであれば色々活動ができる自由度が高いミッションであったため、思いついたら提案書を作成するようにしていました

(I)



(II)



中村 光一（なかむら こういち）

1992年生まれ
東京都足立区生まれ

東京農業大学造園科学科卒業

造園業に2年半
ライフスタイルを学びに海外に半年
（ニュージーランド・インド・タイ）
パーマカルチャーデザインコース修了
有機農家に3年

大洲市地域おこし協力隊
うかいの船頭
THUGIKIを起業

愛媛県で知り合ったベセニーと結婚
定住先を田処（たどころ）に選ぶ

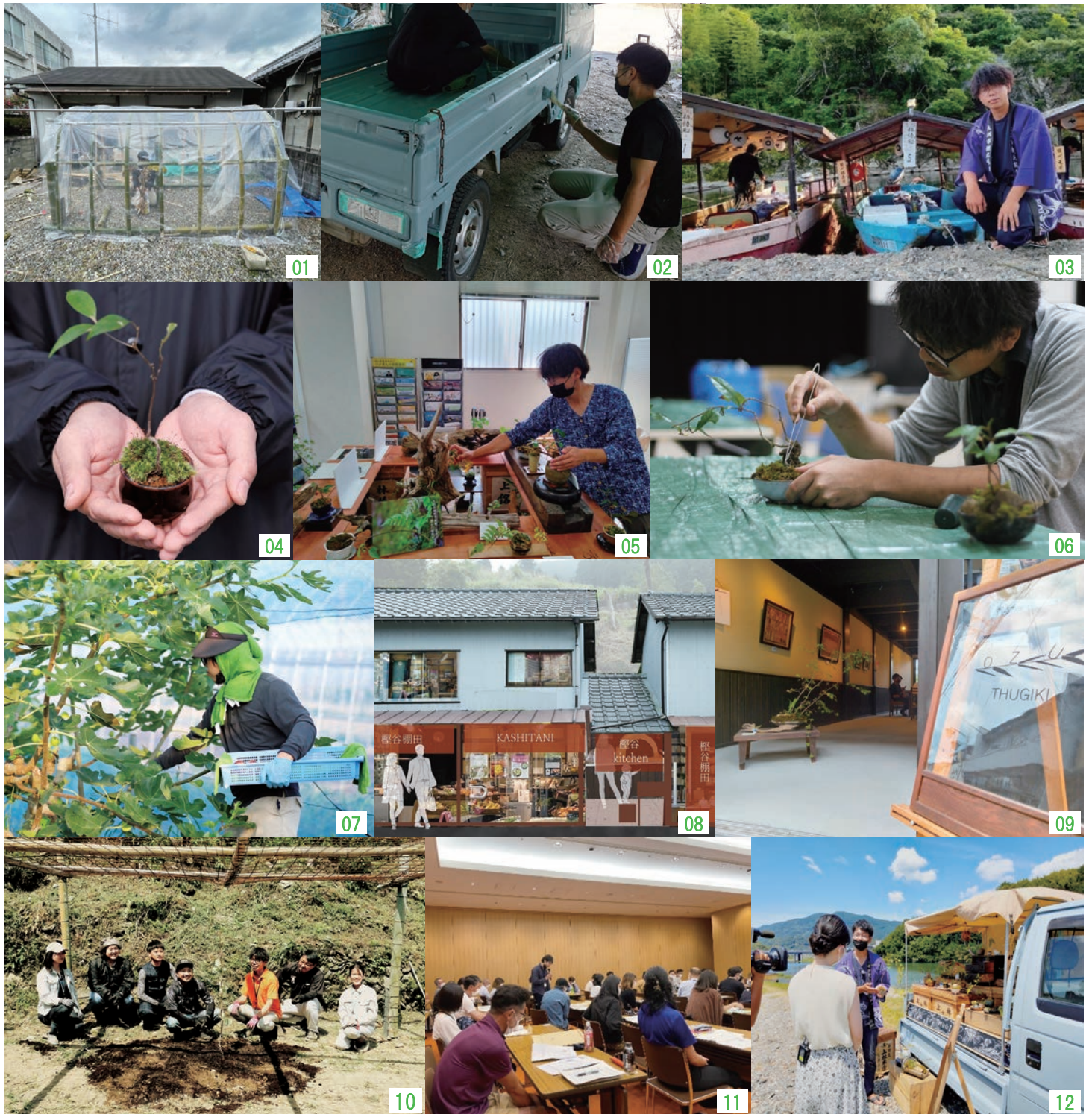
農的な生活、持続可能な生活を夫婦で
目指しています



02_①

3年間の活動のふりかえり（1年目）

「0」を「1」にするため **がむしゃら** に提案作りに挑戦した1年目



01 県内でも放棄竹林が多い大洲市の竹の活用を考えました

03 うかいの船頭としてデビューしました

05 植物といらなくなった器を活用した盆栽の展示をしました

07 農業研修を受けました

09 THUGIKI を起業しました

11 協力隊の研修に参加しました

02 移動販売できるように軽トラックの塗装を行いました

04 大洲の植物の活用を考えました

06 盆栽のワークショップを開催しました

08 グリーンツーリズムの企画提案をさせていただきました

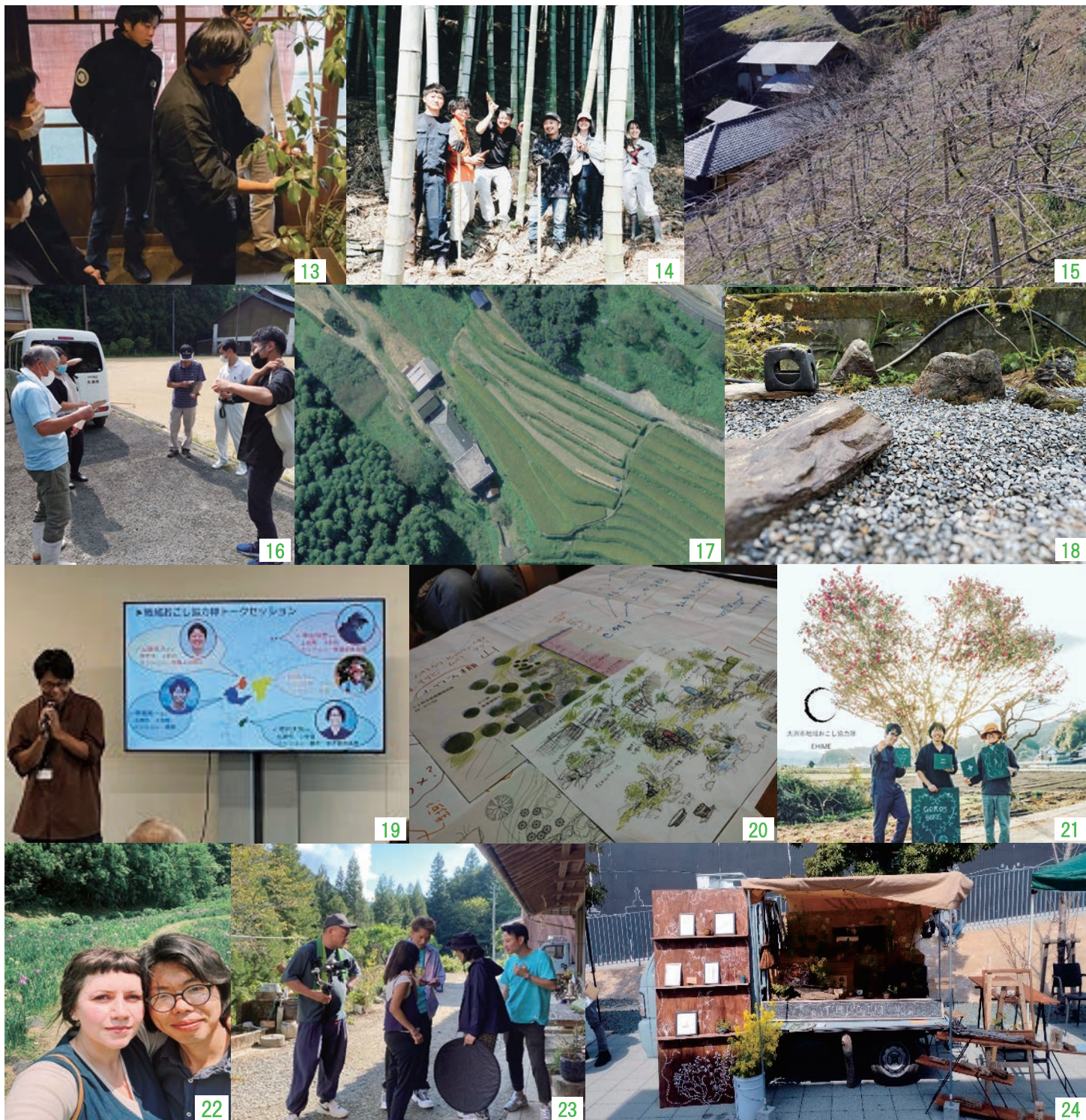
10 アグルビトの活動に参加しました

12 テレビ愛媛の番組でTHUGIKIを紹介していただきました

02_②

3年間の活動のふりかえり（2年目）

「1」から「2」になった2年目



13 大洲市以外でもワークショップを開催しました

15 キウイフルーツの栽培に挑戦しました

17 移住拠点を田処に決めました

19 移住フェアに参加しました

21 五郎地区のボケ（境界木）の有効活用をしました

23 海外のテレビ局の取材を受けました

14 アグルビトにて竹を課題にしたBAMBOO!!を立ち上げました

16 様々な農家さんの所に行きました

18 庭づくりをしました

20 古民家カフェでの庭づくりワークショップを開催しました

22 ベセニーと結婚しました

24 軽トラックを活用した移動販売を行いました

02_③

3年間の活動のふりかえり（3年目）

想いを **カタチ** にしていった3年目



25
自分で育てたキウイフルーツの販売や盆栽の販売をしました

27
バイオジオフィルターを作りました

29
キウイフルーツの無化学農薬栽培に挑戦しました

31
杉林の林床にテラスを作ったり山菜を植えました

33
ニワトリやガチョウ、アヒルを卵から孵して育てています

35
修学旅行生の受入を行いました

26
アメリカに行ってきました

28
薪棚を作りました

30
コンポストティーや酵母などで液肥などを作りました

32
ミミズコンポスト（ミミズ小屋）を作りました

34
シイタケの原木栽培に挑戦しました

36
竹林の整備をしました

03

退任後について



農的な生活

農業を主にするのでは自分たちのやりたい生活ができないことがわかりました。海外で学んだパーマカルチャーの考え方を中心に持続可能な生活をしていこうと考えています。たくさん採れたものはインターネットを通して販売したり、農的なことをしたい人に何か伝えることができればと思っています。

生活の発信

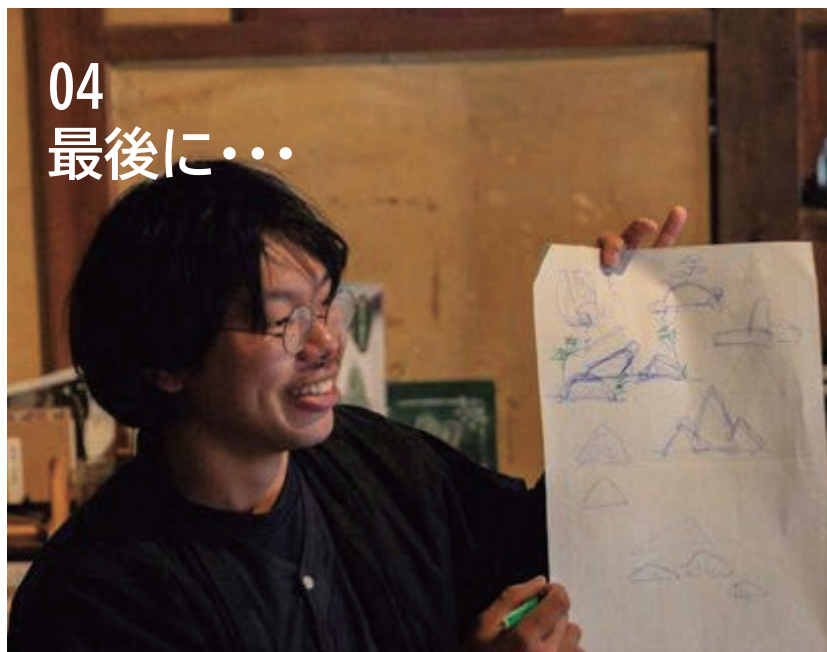
農的な生活や大洲市での暮らしをインターネットを通して発信できればと考えています。

農業体験ができる場所

農的な生活を体験できる場所として、今借りている古民家を農泊ができるように改修したり、WWOOFの受け入れなどを考えています。



04 最後に・・・



3年間を振り返ってみるといろいろなものに挑戦した3年間であったと思います。大洲市に来なければ出会えなかった人や経験などがたくさんあり、大変ではありましたがあっという間のとても充実した3年間でした。

僕が協力隊になったときには大洲市には僕一人しかいなかったのが、今では僕も含めて7人もの協力隊が活動しています。それぞれの隊員が個性や考え方、特技をそれぞれのアプローチで活動をしています。今後増えていく予定です。改めて大洲市はそれだけ魅力的な地域だということを証明しているのだと思います。

僕が住む田処も、昔からの石垣があったり、蚕を飼っていた蔵、昔の道具、ホタルやムササビが舞う、そんな昔ながらの風景や営みが僕にとってとても魅力的でした。大洲市には海も山もあり、それぞれの地域ごとの個性があり、盆地、肱川あらし、うかい、いもたきなど特徴的な自然や文化がたくさんあり、とても面白い地域です。皆さんが感じる当たり前は当たり前ではなく特別なことです。すごいことなんだと感じる3年間でした。

1年目、2年目は何か結果を出さなければいけないと感じ、特にがむしゃらに取り組んだように思います。コロナ禍ということもあり色々なことができないからこそ特に焦っていたのだと思います。起業するために自分の軽トラックを移動販売できるようにしてイベントに参加したり、うかいの船頭になり、狩猟免許を取得し、農業をする土地を探し、何か集まりがあれば参加し、休みもなく何かをやっていた1年目、2年目でした。パートナーのベセニーと出会い、自分たちの生き方について真剣に話し合うにつれて何かをしなければいけない、結果を出さなければいけないなど、僕の中の固定概念や自信のなさからくる独りよがりな感覚が、ベセニーや自分も苦しめていることに気が付きました。

3年目は自分が思っていた生活とは外れていたり、他の協力隊の活動が目に入ると私も何かやらなければと駆り立てられていました。そんな僕を異国の土地でありながらやさしく寄り添ってくれたベセニーにはとても感謝しています。また快く迎えていただいた地域の皆さんや一緒にチャレンジしてくれる大家さん、協力隊期間中に支えていただいた皆さんにも感謝しかありません。

今この文を書いているときに父が倒れ余命宣告を受けました。そんな父の姿をみて改めて強く影響していたことを実感し、私の人生について考えさせられる経験を与えてくれました。

「ありがとう」

改めてこの3年間を振り返ると、人として成長できた3年間だと思います。まだまだ未熟でご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思います。今後もきっちりとご迷惑をおかけすると思います。皆さんの理想に沿うことできないこともあると思います。それでも、僕とベセニーの二人が幸せに自分たちらしく生きられる道を歩いていきたいと想っています。そう思わせていただいたのはこの3年間があったからのことだと思っています。

今後も大洲で住んでいくつもりです。私たちがよそから来たからこそできることを少しずつでも小さくてもしていけたらと思っています。

私たちににかかわっていただいたすべての方に感謝申し上げます。



中村 光一

◇ 連絡先 ◇

地域おこし協力隊（農業部門）《任期：R3.9～R6.8》

中村 光一 - Nakamura Kouichi -



THUGIKI-ツギキ

植物を使って生活を豊かにする提案をします



大洲市 協力隊
Instagram



大洲市地域おこし協力隊
EHIME



大洲市 協力隊
Facebook



大洲市 協力隊
Homepage